

POWER!



2017年
3月
vol. **50**

平成29年(2017年)
3月末日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 隔月(奇数月)発行

<http://www.yakuren.jp>

本田あかり



定時評議員会で決定!!

選任のご挨拶

日本薬剤師連盟 副会長 本田あきこ



この度、日本薬剤師連盟平成28年度定時評議員会において組織内統一候補者に選任頂きました本田あきこでございます。誠に光栄であり、また、身の引き締まる思いでございます。会員の皆様からのご支援を賜りながら、歩み出させて頂くことになりました。今更以上薬剤師が政治的に一丸となれるよう対話を重ね、その声を政策に反映できますよう努めて参ります。

国民の期待に応えられる医薬分業制度をわが国に定着させることが私の第一の基本政策ですが、この政策を実現するためには、医薬分業の歴史をよく学び、継承し、様々な領域の現場で活動している薬剤師や他の医療従事者の現状を常に把握していく事等が大切であると認識しております。医薬分業の定着等薬剤師を巡る諸課題に取り組み、薬剤師がその職能を思うぞんぶん発揮できる社会を構築する事を目指すことが私の役割と認識しております。これから全国を訪問させていただくことになりましたが、各地で活躍されている先生方から、地域と共に歩んできた薬剤師の歴史等も伺わせて頂ければ幸いです。「医薬品のあるところ、薬剤師あり」と医療を受ける全ての方々がこの事を実感し、薬剤師という職能が地域の中で当然のように受け入れて頂けるよう、会員の皆様とともに、今まで以上に薬剤師の結束が深まるよう汗をかきたいと思っております。

そして、この努力が私に課せられた使命と決意しております。

私の座右の銘は「直往邁進」です。字のごとく、思い立ったらやり遂げる性格です。小学生の時、1つ上の兄の真似をしてバドミントン部に入部し、小学生から中学生まで継続しました。中学時代には全国大会に出場し団体優勝。個人戦では中学3年生の時にダブルスで九州大会4位になりました。政治も直往邁進でやり遂げます！

趣味は街の散策です。自分の足で歩きながら眺める景色(現場)が、私の政治意識への萌芽が繋がっています。東日本大震災の後、宮城県を訪問しました。仙台市、石巻市、女川町等、被害地区を約1週間自分の目で見て、自分の足で歩きました。大きな漁船が町の中心部に押し寄せ倒れている光景を前にした時は、その惨状に言葉を失い、ただ立ち尽くすことしかできませんでした。その記憶が未だ消えていない平成28年4月、私の住む熊本県で震度7という極めて大規模な地震を経験し、再び自身の住まいの前で立ち尽くしました。

政治的感性で振り返ると、小学校5年生の時に「生徒会長を目指そう」と考え、1年後にその願いを現実のものとする事ができました。また、中学校1年生の時に母と観た映画、「風と共に去りぬ」の主人公スカーレット・オハラ生き方に強い衝撃を受けました。故郷があるからこそ、人は強くなれるというメッセージを映画から感じ、明るい未来を描き「また明日考える」と結ぶ主人公の台詞が私の生き方の礎になっています。

いよいよ薬局、病院等様々な現場で活躍しておられる全国の薬剤師の方々の声を聴く旅が始まります。愛と希望を持って、わが国の医療制度の更なる充実と発展に向け、私の人生をかけて取り組む決意です！皆様の絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本田あきこのプロフィール

- 薬剤師
- 本籍/熊本県
- 生年月日/1971年9月29日
- 星座/てんびん座
- 血液型/A型
- 趣味/街の散策、美術鑑賞
- ◆学歴
 - 平成2年 私立九州女学院高等学校(現ルーテル学院)卒業
 - 平成8年 星薬科大学卒業
- ◆職歴
 - 医薬品卸勤務、保険薬局勤務、製薬会社勤務、参議院議員公設秘書を経て、現(公社)熊本県薬剤師会勤務

本田あきこさんに期待する

日本薬剤師連盟 会長 山本 信夫



平成28年9月に開催された、日薬連盟の臨時評議員会で、全国の会員各位から沢山のお力を頂き、三期目の当選を果たした藤井基之先生の選挙活動中間総括報告が行われました。その際に、多くの評議員の方々に「6年間のブランクは大きい、是非組織内統一候補を選び、我々の代表をもう一人！」と強く背中を押されました。これまで経験したことのない一大事業に取り組みむわけですから、一瞬の躊躇があったことも事実です。しかし、薬剤師が置かれた環境や周辺事情を考え、地域や患者のために日々努力を怠らず、医薬品の安全な使用や適正な薬物治療の確保を通じて、地域医療に貢献している薬剤師の方々と純良な医薬品の開発に取り組む方々として、的確な流通ラインを確保して下さる方々の姿を

思うと、この先もしっかりとその役割が果たせる環境を守り、さらには超高齢社会にあっても、我が国が世界に誇る皆保険制度を維持し、国民の健康と安心を守るためには、薬剤師自身の努力に加えて、それらの事を政治の場で薬剤師の言葉で、薬剤師自身が、薬剤師のために発言する我々の代表は、一人でも多くなくてはなりません。日薬連盟ではこうした考えのもとに、評議員会で頂いた多くの方々の思いを背負い、鋭意選挙を重ね、本田あきこさんの「薬剤師の思いを伝えたい」という、熱い思いを支援することとしました。10万人の会員、30万人の薬剤師の夢と願いを本田あきこさんに託して、我々自身の手で長年の夢を現実のものとしようではありませんか！

本田あきこ氏へのご支援をお願いします

熊本県薬剤師連盟 会長 廣田 誠介



この度は、熊本県薬剤師連盟副幹事長の本田あきこ氏を選定いただき、ありがとうございます。本田氏とは、平成22年に氏が国政選挙に出馬する際に初めて言葉を交わしました。本田氏は幼少の頃から、政治家として活躍されたご尊父の本田良一氏の姿を見て育ち、星薬科大学を卒業し、薬剤師として卸業や薬局で勤務されました。その後、父良一氏の国会議員秘書となり、政治家のあるべき姿を学んで来られたであろうことが伺われましたが、選挙結果には恵まれませんでした。

再び薬剤師として薬局で勤務、さらに帰郷し熊本県薬剤師会に勤務することになりました。本会で働く姿から、本田氏が誠実に清廉な人物であり、積極的に行動する面も持ち合わせていると見受けられました。熊本地震も経験し、懸命に支援活動を行っていました。本田氏は、これらの経験の中でわが国の社会で薬剤師が置かれた立場を深く理解し、薬剤師の職能を真に「国民のために活かすため」と決意を固めたようです。熊本県薬剤師連盟は、本田氏の人柄と政治家として必要な資質に加え、薬剤師として現場を経験することで、我々薬剤師の代表として相応しい見識を備えるに至り、統一候補として唯一無二と判断し、推薦しました。

本田顕子氏を推薦します

日本薬剤師連盟 九州ブロック総務 藤野 哲朗



この度は、九州ブロックから推薦しました本田顕子氏を選定していただき、皆様深く感謝申し上げます。

ご承知のとおり、新たな組織内候補を擁立することは日本薬剤師連盟として大変重要な課題であることから、藤井基之議員の当選の喜びに湧く中、早くも候補者選定が始まり、9月に各ブロックに推薦依頼がありました。九州ブロックでは、熊本県薬剤師連盟から推薦のありました本田氏を、12月に開催しましたブロック会議において、ブロック推薦候補者に選定しました。本田氏は、日本薬剤師連盟から示されていた「候補者の条件」を満たしており、本田氏こそ相応しいとブロック全ての県薬剤師連盟の賛同を得ました。

本田氏は、国政選挙の経験もあることから熊本県内に支持基盤が既にあります。また、熊本県薬剤師会に勤務しながら、薬剤師議員として国政に貢献するためには自分ができること、新たな組織内候補を擁立するに必要となるべきかを学びながら研鑽を積んでいると伺っていましたが、推薦への立候補の意思表明に、それが表れていました。印象も人柄も非常に好感が持てる人物であり、幅広い見識も備え、必ずや国民のため、薬剤師が活躍できる体制づくりに貢献できると信じております。

今後とも九州ブロックとしても本田氏を総力を挙げて支援する所存です。各ブロック、各都道府県薬剤師連盟、全国の連盟会員皆様が一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

風力計



日本薬剤師連盟 副幹事長 手塚 幹子

「薬剤師議員を増やしましょう！」1月27日、参議院会館講堂で「女性医療職エンパワメント推進議員連盟設立総会」に出席いたしました。同連盟は、超党派衆参両院から212人と、多数の議員が入会(1月30日現在)しているとの事です。参加団体は50と聞いております。

当日は発起人である野田聖子議員はじめ、日本医師会、日本歯科医師会、日本獣医師会、日本薬剤師会、日本看護協会から挨拶があり、海原純子氏(日本医科大学特任教授)による講演、内閣府・厚生労働省・文部科学省・経済産業省・総務省・法務省から現状の取り組み、今後の課題について報告されました。「女性活躍推進法」が平成27年8月28日に国会で成立しました。

医師、歯科医師、薬剤師の従事している女性の割合は(平成26年12月31日)20.4%、22.2%、66.1%と薬剤師が一番多いことは皆様もご存知だと思います。男女共同参画基本計画(平成27年12月25日閣議決定)の一つに「困難な状況におかれている女性の実情に応じたきめ細かな支援等による女性が安心して暮らせるための環境整備」とあります。昨年12月栃木県薬剤師会において「女性薬剤師復職支援」の講演をさせていただきました。結婚、出産、育児等により社会から一時離れた女性薬剤師の復職への不安として、現状の知識に追いつけるか?人間関係に自信がない、就業時間の問題、保育所の問題等がありました。それらを解決していくには私達の代表議員を増やすことも大きな課題の一つです。

次世代の方たちが連盟に関心を持って政治の大切さ、必要さを自覚し、同じ仲間になんて賛同していただき、男女問わず一人でも多くの議員を選出して下さい。薬剤師の職能団体の力を結集し、今後の薬剤師職能をより発揮できる社会を作ってください。このことを期待しております。そして、願っております。

定時評議員会が開催される!!

「組織内統一候補を決定」

平成29年3月22日、平成28年度定時評議員会が、四谷の「スクワール麹町」において開催された。

会長及び国会議員の挨拶

山本会長の挨拶の後、薬剤師国会議員である、松本純国務大臣、とかしきなおみ衆議院議員、逢坂誠二衆議院議員から挨拶をいただいた。

重要事項の報告

石井副会長より重要事項として、「平成29年度厚生労働省予算案・税制改正」、「薬価の毎年改定問題」、「敷地内薬局の誘致問題」、「二部負担金にかかわるポイント付与問題」について、ロビー活動等経過説明がなされた。

報告及び議案の説明



尾島副会長から、平成28年度会務並びに事業中間報告が、岩本副会長兼幹事長から、第24回参議院議員通常選挙結果総括報告及び組織内統一候補者選考報告が行われた。次に、尾島副会長から議案と

して、平成29年度事業計画の件、荻野副会長から、平成29年度責任負担金賦課額に関する件、同年度責任負担金単価及び減免措置に関する件、同年度収入支出予算の件並びに同年度借入金最高限度額の件が説明された。

質疑応答

報告及び議案の説明を受けて質疑応答が行われた。主な質問としては、現在の体制で当選させることができるのか?組織強化のためにも勤務薬剤師対策の強化が重要ではないか?学生対策も重要ではないか?薬科大学へのアプローチも必要ではないか?等が挙がり答弁がなされた。

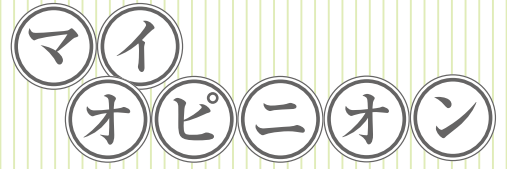
採決

質疑応答後、採決が行われ、報告事項3件、議案5件が賛成多数により全て承認された。

協議

岩本副会長兼幹事長から、次期参議院議員選挙に向けた活動を中心に、今後の日薬連盟の活動について資料を用いて説明がなされ、意見交換が行われた。協議の最後に、組織内統一候補として決定された本田あきこ氏から、候補者に選任されたことを受けての抱負が語られ、満場から割れんばかりの激励の拍手が送られ、閉会となった。

ここで言わせて! 本音でtalk



政府は、厚生労働省は、日本薬剤師会は、私たち現場の話を聞いて決めたのか!? 聞かせて下さい! あなたの意見・見解!

『患者さんから感謝されたエピソード⑨』

7年程前のある夏の日、新潟のとある方から薬局に1本の電話がかかってきた。入院中の親戚が薬の事で困っているので支援してほしいとの依頼であった。1週間後に退院時の関係者の話し合いに同席させて頂いた。

ご本人(男性・66歳)に初めてお会いした時は、お世辞にも綺麗とは言えない身なり、髪の毛は伸び放題、無精髭、太々しい態度にあまり良い印象ではなかった。依頼者は男性の従兄弟のお嫁さんで、ほとんど疎遠であったが、5年前に男性の母親が亡くなる時に、「息子に何かあったら頼む」と遺言されたとのこと。

男性は夏の盛暑の中、新聞配達員に屋内で倒れているのを発見され、多発性褥瘡と高度脱水のため急性期病院で治療の後、2か月間リハビリを受けた。てんかん発作であった。

男性の生活歴・病歴について詳しく知る者はいないが、幼少期からてんかんの持病があり、社会に出たことはないとのこと。家は所謂ごみ屋敷で、新聞が5年分積みあがり、期限切れ食品が散乱し、ネズミも大発生していた。

退院前にすべての環境を整備し、多職種協働の支援が始まった。しかし、介入は容易ではなかった。誰も頼んでいない!「帰れ!」「飯がまずくなる!」「勝手なことはするな!」「顔も見たくない!」「罵倒の日々が続いた。

唯一の救いは、男性が昔からかかりつけていた診療所があったこと。医師に後ろ盾をもらい、徐々に関係を築き、薬も飲んで頂けるようになり、その後約3年間在宅療養に關わらせて頂いた。ある冬の

日、男性は肺炎で入院した。2週間後、お見舞いに訪れると、酸素マスクをつけたまま、手を差し出し「色々ありがと!」消え入るような声だった。翌夕、男性は旅立った。

(東京都・開局 K・Uさん)

今回は、『患者さんから感謝されたエピソード⑩』について本連盟ホームページ「POWER読者アンケート」から、どしどしご意見をお送りください。(その他のことに対するご意見でも結構です) ▶▶▶ <http://www.yakuren.jp/>

豆知識 vol.9

ファーマくんとは?

ファーマくん誕生

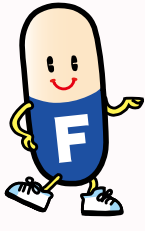
機関紙POWERでも自身のコーナー『ファーマくんがゆく』を持ち、何度も登場しているファーマくん。今回は日本薬剤師連盟のシンボルキャラクターであるファーマくんを紹介させていただきます。

今から遡ること8年前、平成21年の1月号の日薬連盟だより(現在のPOWERの前身)にて、デザインされていたこのキャラクターの命名を公募。3月号で決定し、ここにファーマくんが誕生しました。

では、誰がこのデザインをしたのでしょうか? 当時の執行部の誰かがデザインしたなど、所説ありますが、明確になっておらず謎のままです。

ちなみに胸部にある『F』の文字は連盟を意味するFederationの頭文字です。関連グッズもこれまで数多く作成されました。クリアファイル、ピンバッジなどなど。実はレアですが、ぬいぐるみも存在していることをご存知でしたか。

ぜひ、皆さんもピンバッジを常に身につけて、職場の同僚、友人にも勧めていただき、ファーマくんの輪を広めていきましょう。また、ファーマくんには、日本薬剤師連盟の会員が心をつにし、揺るぎない団結力を維持するためにお手伝いをしていただき、さまざまな機会に登場してもらいましょう。



四国4県(徳島・香川・愛媛・高知)フォーラム (2月4~5日)



千葉フォーラム(2月11~12日)



滋賀フォーラム(2月26日)



北陸3県(富山・石川・福井)フォーラム (3月4~5日)

〈都道府県薬剤師連盟主催〉若手フォーラム開催報告



山梨フォーラム(2月25~26日)



熊本フォーラム(2月26日)



青森フォーラム(3月4~5日)

ファーマくんがゆく

日本薬剤師会 田尻泰典副会長をお訪ねしました



復活した「ファーマくんがゆく」シリーズの第三弾として、今回は日本薬剤師会の田尻泰典副会長をお訪ねしました。

ファーマくん：以下、ファーマ 初めてお目にかかります。日本薬剤師連盟のファーマと申します。本日は、田尻副会長の人となりをお伺いしたいと思っております。よろしくお願ひします。まず、担当される主な業務と意気込みをお聞かせください。

田尻副会長 ファーマくん、こんにちは。連盟事務所に行くことがあまりないので、お会いするのは昨年7月以来かな？ お元気で。



田尻泰典(たじり・やすのり)副会長プロフィール

- 昭和55年第一薬科大学卒業。
- 薬局勤務を経て、福岡県に薬局開設。
- 平成26年6月より28年6月まで常務理事。

お訪ねしました

私の担当は、医薬分業委員会、薬学教育委員会、災害対策委員会、情報システム検討委員会、試験センター委員会と損害保険(傷害保険・薬剤師賠償責任保険)です。未経験の分野も含まれますが、いずれも大切なことばかりです。ガンバリます！

ファーマ 先生の故郷を教えてくださいますか。また、東京で薬剤師会の会務に携わってられますが、業務やお付き合いにおいて、ご出身地との違いで戸惑うことがありましたら教えてください。

田尻副会長 私の生まれは北海道。小学2年生以降は熊本と福岡で過ごしました。まずは九州の言葉の表現と東京での聞きかたの違いがあるかな？ 何気なく言った言葉が「キツク聞こえたり」と言うことは経験しました。

ファーマ 先生の大学生活はいかがでしたでしょうか。思い出深いことありますか。思い出深いことなどを教えてください。

田尻副会長 4年間楽しいことばかりでした。他人に言えない「思い出深いこと」は山ほどありますが「……」。興味があれば個人的に聞いてください。**ファーマ** 先生のご趣味と人生におけるモットー等を教えてくださいませんか。

田尻副会長 趣味…以前は車が好きでサーキット通いをしていましたが、最近はずっと車も取れないので、若い頃からの趣味であるオーディオにハマリ出しました。**モットー**…「明るく、楽しく、スピーディーに！」

同じ仕事するならば、楽しくないところ！

ファーマ 先生は薬局薬剤師として長年にわたって地域で活躍されていますが、薬局薬剤師になられた経緯について教えてください。

田尻副会長 実は、当初は工学部の機械工学科志望でした。ただ大学入試で浪人している間に親族に医療関係者が多かった影響で進路変更しました。今思うと正解だったかなあと思っています。**ファーマ** これまでのお仕事の中で、記憶に残ることを教えてください。

田尻副会長 地元の小倉薬剤師会では平成5年頃に雨後の筍のように診療所の前にいわゆる「門前薬局」が乱立し、このままでは薬局の存在が地域住民に認知されない旨、薬剤師会会報に寄稿したところ、目をつけられたこと(笑)。

福岡県薬剤師会では故小田利郎先生とITを用いた備蓄医薬品検索システム「VPCS」や調剤機器間の通信共通フォーマット「NSIPS」の開発。そして日本薬剤師会では電子お薬手帳やいよいよ発行が始まる薬剤師資格証

HPK I 発行。また現在は「患者のための薬局ビジョン」のアクションプランの作成にむけ奮闘中です。

ファーマ 日本薬剤師連盟に対する印象等はいかがでしょう。

田尻副会長 以前は福岡県薬剤師連盟の副幹事長をしていましたが、現在は連盟の役員はしていないので少し距離を感じるかな？ しかし、市区町村議員選挙はじめ、昨年の藤井選挙の際は常に日本薬剤師連盟、都道府県薬剤師連盟の役員の皆さんの働きを注視して可能な限り協力してきました。今後、若手薬剤師の政治への興味、選挙活動への積極的な参加が大きな課題かなあと思っています。

ファーマ 最後に、日本薬剤師会副会長として、今後もっとも力を入れていくことを教えてください。

田尻副会長 医薬分業の進展も完成の域に達したものの、国民から支持される姿であるのか。急激な進展のもと、おろそかにしてしまった大事なことを、これから利用者である国民目線で薬局・薬剤師の姿の転換点と捉えています。「物

から人へ」薬剤師に本来求められる姿に近づけるために尽力しようと思っています。それと医療分野のICT化はこのないよう準備を進めていきたいと思ひます。

ファーマ 本日は、貴重な時間をさいいただき、また丁寧なご説明をいただき、ありがとうございます。これから薬剤師のために活躍いただくことを期待しております。



もとゆき Report 藤井もとゆき 国会レポート

薬剤師・薬学博士
自民党総務副会長・参議院議員
藤井もとゆき

次期参議院議員選挙に向けて

日本薬剤師連盟では、次期参議院議員選挙に本田顕子さんを組織内統一候補として推薦することを決定されました。それぞれに優れた経歴をお持ちの複数の応募者の中から、お一人を選ぶには大変なご苦労があったのではと推察します。世の中で活躍する薬剤師の約6割が女性であること、女性の活躍する社会の実現がアベノミクスの大きなテーマのひとつであり、永田町でも女性国会議員を増やそうという動きも出ているなかで、世の中の動きに沿った結果となったことは、ある意味自然の流れではなかったかとも思ひます。

国会には医療分野を基盤とする議員の方が多くおられます。例えば医師資格を有する議員は衆参合わせて23人、歯科医師資格を有する議員及び看護師資格を有する議員は、それぞれ6人などです。薬剤師資格を有する議員も4人を数えますが、参議院の薬剤師議員は唯一私だけです。参議院においては、医師、歯科医師、看護師の他、臨床検査技師や理学療法士の資格を有する議員も複数おられるなど、多くの医療系議員が活躍しています。

政府の政策決定の過程において、必ずしも国会議員数の多少が結果を左右するわけではありませんが、発言の機会が増えることを通じ、党内や国会での審議に対する影響力が増すことに繋がります。何よりも3年毎に自分たちの代表を国政に送り出す力を示していくことが重要であります。

昨年の参議院議員選挙から、まだ1年を過ぎてはいませんが、次期選挙に向けた活動のスタートは、遅くはあっても決して早すぎることはないと思ひます。私も前々回の選挙では浪人の身であった事もあり、北は北海道から南は沖縄まで約1年3ヶ月をかけて支援者の皆さんにご挨拶させて頂いたのを思い起こします。この時感じたのは何よりも身体が資本であるということ。くれぐれも健康にご留意され、全身全霊をかけて活動されることをお祈り致します。私も全力を挙げてご支援することをお約束したいと思ひます。

編集後記

健康長寿、センテナリアン!!!

世界保健統計2016によると、世界一の長寿国は日本でした。また、健康寿命は主に老年期の日常的な介護・介助を必要としないで、自立した日常生活を普通に送れる生存期間ですが、こちらも日本は世界第2位です。

日本は健康大国ではありますが、より一層健康意識が高まっています。ところで、健康長寿の代表的なセンテナリアンをご存知でしょうか？ 100歳以上の人を言い、日本語では百寿者と表現されます。先日、センテナリアンの健康長寿の理由を科学的に分析した報道があり、驚愕しました。

血液検査により、センテナリアンではCRPが一般的な基準値より極めて低く、慢性炎症がほとんど起きていないことが分かりました。慢性炎症は、細胞の老化や免疫応答の低下が全身的に生じた状態で、加齢によって炎症状態からの回復反応が鈍くなり、老化に進んでいくとされています。また、寿命は環境的な要因で影響され、その対応によって、誰でも長寿になりうることが示唆されました。

私が驚愕したこと。それは環境的要因の中でも、心の満足感が健康長寿に特に影響していたことです。人の満足感には物欲や食欲といった快楽型と、社会貢献を代表とする生きがい型があります。前者は一時的な快楽でしかなく、慢性炎症を進めてしまう一方、後者の生きがい型は慢性炎症を抑える遺伝子を活性化していたのです。

つまり、人のために生きることが自分自身の健康寿命を延ばしていることになるのです。国民の健康な生活を確保するという薬剤師の大義を違う視点から考えさせられた良い機会でした。

(H.N)

広報委員

- 安東 哲也、石井 甲一
- 鳥海 良寛、大澤 泰輔
- 大原 整、榑方 絢子
- 近藤直緒、美根本 陽充